

# 「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 30 年 4 月 2 日

仕 事 の 内 容	介護予防把握事業、介護予防普及啓発事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	地域包括ケア推進	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款	4	地域支援事業	項	1	一般介護予防事業	目	1	一般介護予防事業	事業	1	
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 平成29年4月1日時点で75歳以上の奇数年である介護保険第1号被保険者(要支援・要介護認定者を除く)						① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 平成29年4月1日時点で75歳以上の奇数年である介護保険第1号被保険者(要支援・要介護認定者を除く) ・平成28年度から対象者等の変更があったため、2の指標には平成29年度実績のみ掲載。					
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 要支援・要介護状態になる恐れの高い高齢者を把握し、介護予防教室への参加を目的とした働きかけを行い、健康寿命の延伸につなげたい。						② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) → 健康寿命					
	③ そのために何をしましたか。 基本チェックリスト(日常生活機能に関するアンケート)を用い、要介護状態等になる恐れの高い高齢者を把握し、知し、介護予防教室を案内した。最終的に基本チェックリスト未返送の者に対し、生活状況の把握を行った。						③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) → ①基本チェックリストの発送者・返送者 ②基本チェックリスト未返信者への勧奨通知数 ③基本チェックリスト未返送者に対する訪問件数					

2 指標の推移			単位	平成29年度実績				
	対象指標	①の数値	人	4,148				
	成果指標	②の数値	人	不明				
	目 標	②の目標値						
			目標値設定の考え方					
	活動指標	③の数値	人	①4,148・3,777 ②569 ③325				

3 経費	事業費(実績)		円	4,148,982				※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,267,000円 時間単価は、4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成27年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源		円	518,623			
		特定財源		円	3,630,359			
		(うち受益者負担)		円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)		人	1.0			
		所要人数(再任用)		人				
職員人件費(再任用以外)		円	12,400,500					
職員人件費(再任用)		円						
事業費+人件費			円	16,549,482				

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 要介護状態になる恐れの高い高齢者を的確に把握し、介護予防事業への参加やその他の介護予防を目的とした働きかけを行い、要介護状態等になることを予防することが目的である。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 開始以来、医療制度改革等により何度か取り組み方法が変わった。 平均寿命の延伸になどに伴い、高齢者人口は急速な増加を続けている。	

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 例年通り、「まだ現役で仕事をしてので不要だ」「失礼だ」「面倒である」等のご意見を頂いた。また、「気にかけていただいてありがとう」といったご意見もあった。	
-------------	--	--

仕事の内容	介護予防把握事業、介護予防普及啓発事業		
担当部署・課長名	高齢介護	課 地域包括ケア推進	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)		
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体: ) ⑦後援・場の提供 ⑧その他( )
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
7 課題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。 基本チェックリスト実施に対する厳しいご意見(「まだ元気なのに失礼だ」「面倒である」等)という声があったが、未返送者の把握を行なうため、勸奨通知の送付を行なった。		
	(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。 基本チェックリストの判定でリスクがない者に対して何も通知等は行っていないため、調査が役立てられているのか、市民からは見えづかった。		
8 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など) できるだけ市民に基本チェックリストを送付している理由、未返送者に対し督促はがきを送る理由などを知ってもらい、住民からの誤解を招かないように説明していく。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。 市に何かしら問い合わせがあったときは、真摯に事業目的を説明し、現在直面している高齢者問題解決に向けて業務を遂行していることに理解をしてもらう。		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
成果	成果を向上させる。		経費 仕事の経費は削減する。